

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児聴覚障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	401
担 当 教 員	中瀬 浩一	実務経験と その関連資格	聾学校(聴覚特別支援学校)教諭22年、言語聴覚士、聾学校教諭普通免許状、公認心理師、			
《授業科目における学習内容》						
聴覚障がいのある子どもについて、実際の子どもの様子を学びながら、その特性と支援方法について体験的に理解して、必要な知識を身につける。この科目の学習を通して、より良く子ども理解をして指導計画作成をしようとする態度ができる。また、教育現場等での指導計画作成にあたって、言語聴覚士として適切なアドバイスができるようになる。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(100%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・聴覚障害学第4版. 医学書院						
《授業外における学習方法》						
・前回授業内容に係わる復習						
《履修に当たっての留意点》						
授業で示された課題について、自分で考え、グループで討議し、言語でまとめて表現するというを大切にしてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	＜小児難聴のハビリテーションの概要＞聴覚の機能、聴覚の発達、聴覚の障害とは何かについて説明できる。		パソコン プロジェクター		
	各コマにおける授業予定	聴覚の機能について、体験的に学ぶ。そして聴覚の発達(聴性行動反応など)聴覚の障害(難聴の分類など)について学ぶ。				
第2回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	＜小児難聴のハビリテーション1＞聴覚障害のハビリテーションの歴史と現状について説明できる。		パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁を読んでおく。	
	各コマにおける授業予定	聴覚障害のリハビリテーションの歴史(手話口話論争、障害に対する考え方等)について学ぶ。読話などを体験的に理解し、聴覚障害児に対する必要な支援について学ぶ。				
第3回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	＜小児難聴のハビリテーション2＞ハビリテーションの概要について理解し、ハビリテーションの全体像が描けるようになる。		パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁を読んでおく。	
	各コマにおける授業予定	小児聴覚障害のハビリテーションについて、その構成と内容の全体像を学ぶ。				
第4回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	＜小児難聴の評価1＞実際の子どもの様子を想定しながら、総合的発達的な視点から評価ができるようになる。		パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁を読んでおく。	
	各コマにおける授業予定	発音・発語指導、言語指導、聴覚学習について理論的な背景を学習する。また、短期的および長期的見直しをもって指導プログラムを作成する方法について学ぶ。				
第5回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	＜小児難聴の評価2＞聴覚評価・聴覚検査、コミュニケーション発達評価に方法を説明できる。		パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁を読んでおく。	
	各コマにおける授業予定	聴覚評価・聴覚検査、コミュニケーション発達評価について学ぶ。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児難聴の評価3>言語評価、発声発語評価、書記言語力 評価の方法を説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	言語評価、発声発語評価、書記言語力評価について学ぶ。		
第7回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児聴覚障害の指導・支援1>小児のハビリテーションについ て基本的な考え方を説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	発音・発語指導、言語指導、聴覚学習について理論的な背景を 学習する。また、短期的および長期的見通しをもって指導プログ ラムを作成する方法について学ぶ。		
第8回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児聴覚障害の指導・支援2>難聴児の音声言語習得上の 課題を説明できる	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	難聴児の音声言語習得上の課題を多角的に理解する。		
第9回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児聴覚障害の指導・支援3>乳児期の指導の実際につい て説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	実際の教材や映像資料などを通して、乳児期の指導について、 聴覚障害と発達の課題を考えながら、基本的な方法を学ぶ。		
第10回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児聴覚障害の指導・支援4>幼児期の指導の実際につい て説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	実際の教材や映像資料などを通して幼児期の指導について、聴 覚障害と発達の課題を考えながら、基本的な方法を学ぶ。		
第11回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児聴覚障害の指導・支援5>学童期の指導について、読み 書きの困難さなどの観点から説明できるようになる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	学童期の指導について、言語指導の観点に加え、読み書きの難 しさと指導の工夫について、実際の子どもの様子をふまえながら 学ぶ。		
第12回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児聴覚障害の指導・支援6>聴覚障害がある子どもの思春 期と障害認識、セルフアドボカシーについて説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	思春期に課題となることや障害認識、セルフアドボカシーの指導 について学ぶ。		
第13回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児聴覚障害の指導・支援7>軽度・中等度難聴児の課題に ついて説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	軽度・中等度難聴児にはどの奈ような課題が見られるかを、事例 を通して学ぶ。		
第14回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児聴覚障害の指導・支援8>重複障害について説明でき る。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	聴覚障害と知的障害や自閉スペクトラム症などの障害を併せ有 する子どもについて、事例を中心に学ぶ。		
第15回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	<小児難聴のハビリテーション3>聴覚障害の社会資源につい て説明できるようなる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁 を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	聴覚障害児をとりまく様々な問題(家庭の協力、生涯発達の支 援、バリアフリー、情報保障など)について考えていく。また、学 校教育や言語聴覚士としての適切なアドバイス法について学 ぶ。		